

Carmen Staaf & Jorge Roeder

[プロフィール]

Carmen Staaf カーメン・スターフ：ピアノ、作曲



シアトルで育ち、大学入学前にキューバでクラシックピアノとサルサのレッスンを受ける。タフツ大学で人類学の学位を取得して卒業し、ニューイングランド音楽院でダニエル・ペレスに師事して音楽を学ぶ。卒業後はパークリー音楽大学で最年少の教員の一人として採用されピアノ科で教鞭を執る。

2009年に「メアリー・ルー・ウィリアムズ・ピアノコンクール」で優勝し、名門「セロニアス・モンク・インスティテュート」に受け入れられ研究者として現代ジャズシーンを代表するウェイン・ショーターやハービー・ハンコックの指導を受ける。

その後、ハービーの承認を得て、ハービー・ハンコックのマスタークラスでの演奏やレッスンの楽譜作成、講座の監修も担当する。

作曲家としては、ジャズ・コアリション、ジャズ教育ネットワーク、トロンボーン奏者のジェニファー・ウォートンから委嘱を受け、アメリカン・バレエ・シアターのためにオーケストラ編曲を手がける。

彼女は、現代を代表するミュージシャンたちと共演・録音を重ね、NEA ジャズ・マスターのディー・ディー・ブリッジウォーターのピアニスト兼音楽監督を8年間務める。これまでの主な公演には、伝説的なハービー・ハンコックとウェイン・ショーターとの2台ピアノ編成でのプレイボーイ・ジャズ・フェスティバル、ウィントン・マルサリスとリンカーン・センター・ジャズ・オーケストラのジャズ・アット・リンカーン・センターのゲストソリスト、ケニー・バロンとフレッド・ハーシュとのケネディ・センターでの共演などがある。また、ヴィレッジ・ヴァンガード、ブルーノート、SFジャズ、そしてニューポート、モントレー、モントルー、ノースシー・ジャズ・フェスティバルをはじめ世界各地の主要ジャズ・フェスティバルにも出演している。

リーダー作最新は、アンブローズ・アッキムサリ、ジョン・サントス、ベン・ゴールドバークらが参加した「Sounding Line」は批評家から高い評価を受け、ネイト・チネンの「2025年のベスト」リストに選ばれた。ドラマーのアリソン・ミラーとは2018年にリリースの「Science Fair」でNY Times紙の「2018年のベスト・ジャズ」、LA Times紙の「2018年のベスト」、DownBeat誌の4.5つ星に選ばれ2022年リリースの「Nearness」は、DownBeat誌の「2022年のベスト」リストに選ばれる。他に、マイケル・フォーマネクとジェフ・ウィリアムズとトリオのアルバム「Bloom」を2019年に「Woodland」を2020年にリリースした。また、2026年にデビューアルバムがリリース予定のコレクティブバンド「ContraPunctus」のメンバーでもある。

教育者として精力的に活動するカーメンは、パークリー音楽大学、ニュースクール大学、スタンフォード・ジャズ・インスティテュート、スワルナブーミ音楽アカデミー（インド、チェンナイ）、ジェイコブズ・ピロー、リッチフィールド・ジャズ・キャンプ、ニューヨーク・ジャズ・アカデミーなどで教鞭を執り、世界各地でマスタークラスを指導している。音楽界のレジェンド、ハービー・ハンコックは、カーメン・スターフを「作曲、オーケストレーション、編曲においても卓越した才能を持つ、完璧なジャズピアニスト」と評している。

ピアニスト兼作曲家のカーメン・スターフは、ニューヨークおよび世界の音楽シーンで注目を集める新進気鋭のアーティストです。

Jorge Roeder ホルヘ・ローダー：ベース



ペルー、リマ出身。

幼い頃に母親の薦めでギターを始める。その後14才の時コントラバスに興味を持つがその時に学ぶ事が出来ず代わりにチェロを学ぶ。16才の時にチェロの演奏でロシアのサンクトペテルブルクの「リムスキー・コルサコフ音楽院」に招かれる。

18歳の時に念願のコントラバスを弾きはじめる、後に「リマ・フィルハーモニー管弦楽団」「リマ・オペラ管弦楽団」の副主席ベーシストに任命される。

クラシック音楽を演奏するかたわらジャズにも興味を持つようになり、2002年、奨学金を得て米国ボストンにある名門「ニューイングランド音楽院」に入学し Danilo Perez, Charlie Banacos, John Lockwood 等からジャズを学ぶ。音楽の学位を得て卒業後ニューヨークに拠点を移しジュリアン・ラージ、ソフィア・レイ、シャイ・マエストロ、ライアン・ケバリ、カミラ・メザ等と長年にわたるパートナーシップを築き、ゲイリー・パートン、アレックス・アクーニャ、ネルス・クライン、ジェフ・キーザー、ケニー・ワーナー、スティーブ・レイシー、アントニオ・サンチェス、マット・ウイルソン、ジョン・ゾーンなどの革新者たちとステージを共有し各方面より注目を浴びる。

2007年、「International Society Of Bassists Jazz コンテスト」で最優秀賞を受賞。

2009年「セロニアス・モンクジャズコンテスト」のセミファイナリストに選出される。

同年、参加していた Julian Lage グループがグラミー賞にノミネートされる。

「オリジナルのジャズはもちろん伝統的な南米音楽をてがける Sofia Rei グループの創設メンバーとして芸術監督を担っている。

彼は今日のジャズ界で最も多才で表現力豊かなベーシストの一人として知られており、シンフォニックな想像力とフォークミュージシャンの親密な抒情性、生々しいロッカーの攻撃的なエネルギーとアフリカ系ペルー人のルーツの軽快でリズムカルな感性を組み合わせ、確固たる基盤の中で幅広い影響力を伝えています。